

平成24年度 鶴の里懇話会



今年度行われた鶴の里懇話会・開催日と参加人数

六郷地区 / 1月16日
境・胡桃館ふれあいセンター
参加者 34人

梅沢地区 / 1月18日
横蒔ふれあいセンター
参加者 34人

上三地区 / 1月22日
あやめふれあいセンター
参加者 32人

水元地区 / 1月24日
廻堰文化センター
参加者 45人

鶴田地区 / 1月29日
国際交流会館
参加者 58人

A 【総務課長】
町では、計画的に町内各避難所に防災資機材を配置したり、自主防災組織を立ち上げていただくなど防災意識の高揚に努めております。新年度においては、防災行政無線設置の調査設計に着手する計画がありますので、参考にさせていただきます。

Q 東日本大震災以降、防災について力を入れていると聞きます。当町内会も自主防災組織を結成しました。町当局では防災呼びかけ時には、広報車にて巡回周知しているところですが、聞き取れなかったり聞き漏らすこと等があります。屋外スピーカーを設置し、繰り返し放送周知することで情報を知ることができると思っています。将来は各家庭に、防災無線機の取り付けを希望します。

防災無線の設置について

◆事前通知分懇話会から

町民の皆さんの声を直接伺い町政に反映させようと、今年も1月16日から1月29日にかけて町内5地区で『鶴の里懇話会』が開催されました。懇話会には延べ203人の一般町民の方々と町関係者が出席。町民の方々からの質問や意見に対して、中野町長をはじめとする町担当職員から最善策の提案が行われるなど、各地区で町民と町との懇談が行われました。今回はその模様を一部ご紹介いたします。

空き家対策について

A 【総務課長】
ご指摘のような長期不在の家屋が、昨今の自然災害等に対する管理不足から、隣家や通行人等に迷惑をかけるケースが多く見受けられてまいりました。個人の財産等民事的事例に行政が介入することは難しく、各自治体は空き家対策条例を制定し、対策を講じようとしています。

Q ここ数年、地域を巡回するたびに毎に、全くの空き家と長期不在(出稼ぎ等)の家屋が目立ってきました。一人暮らし高齢者世帯の場合、地域の協働で冬期間の雪下ろしなど行いますが、前者の場合、雪害による倒壊や町道への滑落、トタン屋根の荒れて飛びそうな所が見受けられ、通行人や通学児童への安全が気がかりです。地区の住民ができることは果たさなければならぬと思いますが、何か良い方法はないものでしょうか。



・梅沢地区

空き家の基準や不動産に付帯する権利、所有者の特定が難しいことなど運用上の課題が多々あります。町としては、他自治体の事例も調査しながら有効な対策について検討を進めていきたいと思っております。空き家は所有者が管理することが大前提であります。町としても所有者の特定に努め、空き家の適正管理について対応を依頼しているところでありますので、行政推進員や民生委員の方々をはじめ近隣住民の方々には、空き家の所有者や縁故者の情報提供をお願いしたいと思います。できる範囲で結構ですが、所有者等とおつきあいがありましたら、空き家が危険な状態になっている旨の注意喚起をしていただくようお願いいたします。

カーブミラーの設置を

Q 旧国道339号線の変電所から国道339号線バイパスへ出るT字路交差点は、冬期間防雪柵に視界が妨げられ、弘前方面から五所川原方面へ向かう車が非常に見えづらい状態になります。また、この交差点には信号機も無く、大変危険な場所です。

冬期間でも安全に339号線バイパスへ出られるように、カーブミラーを設置していただきたく要望します。

A

【町民生活課長】

ご指摘の個所につきまして、五所川原警察署および西北地域県民局地域整備部、交通安全協議会などで構成する交通診断に設置要望の書類を作成し、平成25年度の交通診断に設置を要望いたします。

観光の活性化について

Q 町長は、津軽富士見湖を中心とした観光に力を入れており大変苦労し、効果を上げていますが、さらに新幹線による観光に力を入れ、西北五地域の連携等をし、さらなる活性化を図ってはどうか。(農協、商工会等の力を利用して)

A 【産業観光課長】

観光振興の広域連携につきましては、弘前市を中心とした津軽広域観光協議会、五所川原市を中心とした西北五観光物産協議会や五能線沿線連絡協議会に加盟をしながら取り組んできているところでありますが、更なる観光振興と総合的な情報発信のため、町のプロモーションサイトを立ち上げたところがあります。

また、町商工会に事務局を置く町観光協会においても、昨年度観光協会のホームページも一新させながら、観光情報等の発信に努めているところでありますので、より連携を深めながら、その取り組みを強化したいと思っております。

地域の安全安心について

Q 鶴田町では、朝ごはん運動による家庭の絆が生む住みよい町になつていると思います。

そこで、昨年の東日本大震災により地域の防災、絆が問われているのではないのでしょうか。そして、子育て、高齢者の介護等福祉保障の問題が問われているところだと思えます。

この社会保障の改善に少しでも力になればと思います、家族、地域のあり方について町を挙げて見直してみることはできないでしょうか。

しょうか。核家族化、地域隣同士のある方、戦後の復興時の地域の力を子育て、高齢者の点でも今一度考えてみてはどうでしょうか。というのは、子どもを、親はもちろん、おじいちゃん、おばあちゃんが見守り、高齢者を子どもはもちろん、孫や親族が見るといことができ、地域の安全安心ができてくるのではと思います。

A

【教育次長】

地域の安全安心につきましては、学校・家庭・地域の連携がより重要になってくると思います。町では現在、学校・家庭・地域連携総合推進事業で各小学校区ごとに地区協議会を設け、地域の連携を深めるためにさまざまな活動をしています。核家族化や隣同士のあり方、子育てや高齢者のことなどについても重要な検討課題として捉え、今後の活動に組み入れていくことを検討してまいります。

つがる総合病院について

Q つがる総合病院の緊急時の対応のあり方は、どのように議論がなされているのでしょうか。医師、看護師、技師の配置は目標達成されているのか。中身はどこまで進んでいるのか。

この体制を構築するため、現在「つがる総合病院」の建設工事を始めたとしてハード面の整備のほか、医師を始めとした医療スタッフの確保に継続して取り組んでいます。

次に職員の配置ですが、広域連合では毎年度、弘前大学や青森県に対して、医師確保や医療



・六郷地区

A

【鶴田診療所事務長】

計画では、圏域の中核となる「つがる総合病院」が、救急医療の中心となります。救急専門の診察室3室と救急専用病床10床を有する救急部が整備され、救急車両の待機スペースも広く確保することになっていきます。また、緊急の検査に対応しやすいようにX線室、CT室、MRI室、脳波室など主要な検査部門は救急外来と同じ階に集中して配置されることになっていきます。

機能の強化、拡充についての協力、支援の依頼を行ってまいります。その結果、つがる総合病院の前身となる西北中央病院では、平成24年4月から、第一内科、小児科および産婦人科で各一人、合計3人の常勤医が増員となっております。

また、西北中央病院の臨床研修医は、平成23年度に3人、24年度に4人採用、25年度は6人採用見込みと、3年連続で増加しています。臨床研修医を含めた、つがる総合病院の医師数はマスタープランの目標数をすでに上回っていますが、まだまだ十分と言える状況ではないため、医療機能の強化、拡充に向けて今後も医師確保に取り組んでまいります。

医師以外のスタッフについても、連合組織になったことで、新たな職員の採用に加えて5病院全体での人事異動も行っていますので、おおむね目標数に達する見込みとなっております。

なお、つがる総合病院の建設は現在、進捗率が30%まで進んでいて、平成25年11月30日完成、26年3月末の開業予定となっております。



・上三地区